



鴨川の源流

くもがはた

雲ヶ畑

散策マップ

北区役所地域力推進室
TEL 432-1208 平成24年12月発行

雲ヶ畑の歴史

くもがはた

雲ヶ畑は、鴨川にいたる雲ヶ畑川の流域に開けた山間集落で、京都市内中心地から北へ15キロほどのところに位置する。

もとは葛野郡中津川・中畑・出谷の3カ村からなっていたが、明治7年に合併して雲ヶ畑村と改められた。その後、昭和24年に京都市上京区に編入され、昭和30年に分区して北区となった。雲ヶ畑という地名の由来については、昔、岩屋山に薬王菩薩が現れ、病人を救うために東西の山々に薬草を植えたところ、その花は四季に咲き、においは四方に薫じ、山上はあたかも紫雲のたな引くようであったため、雲ヶ畑と名付けられたと書かれている。(山名跡)

平安京造都以前より、出雲氏、小野氏、鴨氏等が村を拓き、惟喬親王を供奉する高橋氏、秦氏等がこの村に定住したのが村の生い立ちと考えられている。



こううんじ
高雲寺

九龍山(くりゅうざん)と号し、臨済宗永源寺派に属する。この地は、文徳天皇の第一皇子惟喬親王(これたかしのう)が閑居された高雲(こううん)の宮址と伝えられ、貞観11年(869)、親王は、ここで落飾され、宮を改めて当寺を創建したといわれている。創建当時は、真言宗の祈禱所として栄え、祈禱を行う際には、村役人をはじめ里人が集まり、謡曲の「田村」を奉納したり、寺に柩を近づけないなどの風習があったと伝えられている。



「雲ヶ畑」
林業総合センター

「林業総合センター」は森林組合の仕事はもちろん、雲ヶ畑の地域の情報を発信出来る場を目指して開設された。喫茶・軽食コーナー「森林の茶房」をはじめ、バーベキューに利用できる広場や、約15台の駐車スペースも完備している。もちつきや紅葉狩りなど四季折々のイベントに、またコンサートや会議などに幅広く利用できる。



いつくしまじんじや
巖島神社

巖島神社の歴史は古く、元は天津岩門別稚姫神を祀っていた。いつしか雲ヶ畑弁財天と呼ばれ、明治の廃仏毀釈(仏教を信じることをやめ、日本の昔からの神様を信じなさいという明治政府の方針)の時、祀っている神社が同じということで、安芸巖島神社の社名を借り、今の巖島神社となる。神社の鳥居付近には樹齢400年を越える3本の杉の大木があり、訪れる人を迎えてくれる。



これたか
惟喬神社

岩屋山麓の岩屋橋を渡り志明院に至る参道の入口にある旧出谷村の産土神で、惟喬親王に供奉していた人々が親王の霊を祀った神社と言われ、一説によれば、親王が田や猟をする時に寵愛した雌鳥が、ここで病死し遺骸を埋めたという言い伝えから「雌鳥社」ともよばれている。



まつあげ
松上げ

雲ヶ畑松上げは、雲ヶ畑出谷町・雲ヶ畑中畑町の二箇所の山の中腹に桐木となる鉄の棒を寝かせ、その先に約4m四方のやぐらを組みたいまつを文字の形に取付け、心棒を直立させ、夜空に火文字を浮かび上がらせる仕組みである。この行事は毎年8月24日に行われており、真夏の夜に浮かぶ文字は、点火直前まで秘密。

しみょういん
志明院(岩屋不動尊)

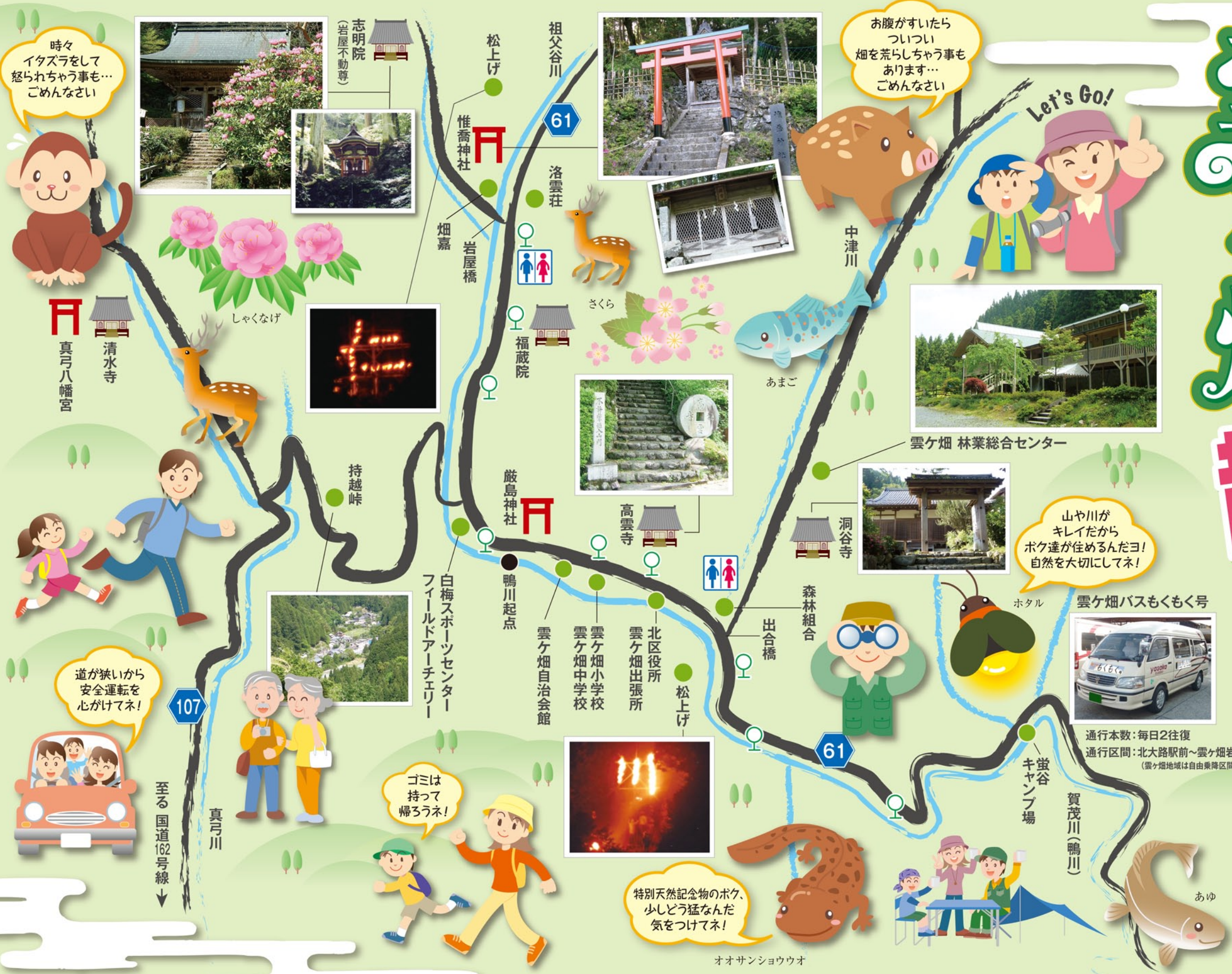


当山は鴨川の水源地にあたり650年(白雉元年)役の行者が開山されたといわれ、829年(天長6年)弘法大師が淳和天皇御勸願により創建された。本尊不動明王は淳和天皇の勸願に依り弘法大師の直作と伝えられ、根本中院本尊眼力不動明王は宇多天皇の勸願により菅原道真公一刀三礼の彫刻で、以来皇室勸願所として御崇敬深く、秘仏として御即位に際し勸使を迎え開扉され、宝祚延長、万民安穩の祈願を籠められた。日本最古不動明王顕現の神秘霊峰である。また、歌舞伎十八番(鳴神)の聖地としても有名である。京都市天然記念物に指定されているしゃくなげの林は四月に開花し見事である。

雲ヶ畑

散策マップ

	神社		バス停
	寺院		公衆トイレ



雲ヶ畑バスもくもく号
 通行本数: 毎日2往復
 通行区間: 北大路駅前~雲ヶ畑岩屋橋
 (雲ヶ畑地域は自由乗降区間です。)



雲ヶ畑 林業総合センター



洞谷寺



中津川



高雲寺



特別天然記念物のポク、 少しどう猛なんだ 気をつけてネ!



志明院 (岩屋不動尊)



清水寺



真弓八幡宮



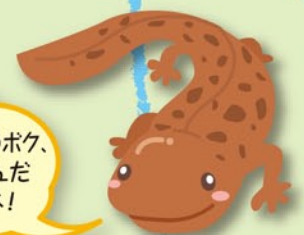
道が狭いから 安全運転を 心がけてネ!



至る 国道162号線 ↓



ゴミは 持って 帰ろうネ!



オオサンショウウオ



あゆ



あゆ